

第 1 回協力者会議における意見の整理

第 1 回協力者会議にて提示した「主な検討事項例（案）」の項目ごとに、事務局において各委員の意見を以下のとおり整理した。

1. 大学入学者選抜における多面的な評価の内容や手法に関する事項

○ 学力の 3 要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を把握するに当たり、一般、A0、推薦入試のそれぞれの選抜区分ごとに求められる多面的な評価の在り方について、どのように考えるか。

- ・ 推薦入試や A0 入試では、調査書はかなり活用されていると思うが、例えば、大規模私立大学の一般入試では早く合格者を確定させる必要があり、調査書は十分には活用されていないのが現状である。
- ・ 電子化した調査書から得られる情報だけで主体性等を評価できるかは疑問であり、きちんと多面的・総合的な評価を進めるためには、A0、推薦入試を充実させるのかなど、入試の仕組みの在り方を議論する必要があるのではないか。
- ・ 多面的・総合的な評価に入試を変えていくのであれば、調査書をいくら電子化しても、合否判定までの期間との関係で、一般入試で評価するのは難しいと思う。そうなると、全ての入試を A0、推薦入試のような形に変えていかざるを得ないのではないか。

○ その際、特に主体性等を入試で評価することの意義について、どのように考えるか。

- ・ 一番重要なことは、生徒が様々な活動に取り組んだという目的と、それを達成するまでの過程を評価することだと考える。この点を特に一般入試で評価できるかというのは、なかなか難しいのではないか。
- ・ JAPAN e-Portfolio を使って評価する場合、生徒が自分で入力するものなので、どこまで信憑性があるのか議論が必要。
- ・ 国の方から各大学で評価基準を定めてくれという形になった場合、主体性というのが本当に公平・公正な入試の評価につながるのか疑問。
- ・ 大学入試のために、高校生がポートフォリオに入力することが、かえって自分たちの高校生活の自由度を奪ってしまわないかということ。
- ・ 多くの大学が求めているのは、体験活動に重きを置いた主体性というよりも、普段の高校での学習に対する主体性を求めているのではないか。

- ・ 多面的・総合的評価を導入することで、具体的に何が良くなるのか、どのように展開していくのか等を共有して議論を進める必要がある。
- ・ そもそも入試で主体性を評価するべきかというところまで戻って議論するのか、あるいは評価することを前提に電子調査書システムを作るなど、建設的にどのような評価が考えられるのかを議論するのか、整理が必要。
- ・ 大学が評価しようとしている主体性とは、学ぶ学習場面での主体性なのか、ボランティアとか留学とか課外での主体性なのか、それぞれの大学のアドミッションポリシーによって異なると思うので、この点を明らかにすることが必要ではないか。

○ 高校や保護者側が期待する多面的な評価とはどのようなものか。

- ・ (再掲) 大学入試のために、高校生がポートフォリオに入力することが、かえって自分たちの高校生活の自由度を奪ってしまわないかということ。

2. 調査書の在り方及び電子化手法に関する事項

○ 次期学習指導要領に対応した指導要録の改訂及び学校の働き方改革による教員の負担軽減を踏まえた調査書の内容について、どのように考えるか。

- ・ 指導要録の記載事項を必要最小限にすることと、調査書の指導上参考となる諸事項の欄が細分化されているのは若干矛盾を感じる。
- ・ 現実として、調査書の様式によって指導要録の作り方も変わっていかざるを得ない点に留意が必要である。
- ・ 調査書の裏面(「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」など)に実際何が書かれているか、現状をきちんと把握することが必要ではないか。

○ その際、観点別学習状況の評価の観点や、調査書の「指導上参考となる諸事項」の欄の取扱などについて、どのように考えるか。

- ・ 新しい学習指導要領では観点別評価がより見える形になっており、歓迎したい。新たな調査書ではこの点も考慮に入れた議論をお願いしたい。
- ・ 観点別評価を調査書でどう取り扱うかを明確にしておかないと現場は動けない。

○ 「学習成績の状況」(旧「評定平均値」)の記載について、どのように考えるか。

○ 調査書の電子化として、どこまでの仕組を求めるか。

- ・ 電子化するからといって、調査書にいろいろなことを記載する項目を設定するのは無理がある。
- ・ 大学入試のことだけを念頭に置いたシステムではなく、進学しない生徒にも視野を広げた議論が必要。
- ・ 2022年度に電子化しても、新学習指導要領に対応した最初の入試に向けて中身が変わるわけであるから、2022年度からの導入は見送ってはどうか。
- ・ 関西学院大学が代表校となっていて行っている調査書の電子化の調査研究では、ポートフォリオ機能と調査書機能を合体させたものを電子的にやり取りするものを想定している。

○ その際、調査書データの集積や管理、個人情報保護の在り方及び管理の主体について、どのように考えるか。特に、一元管理の利便性や課題についてはどうか。

- ・ 文部科学省の教育情報セキュリティポリシーのガイドラインでは、センシティブな情報を扱う校務支援システムは基本的には外部と遮断されていなければならないが、電子調査書の授受システムのイメージでは外部とつながっており、検討が必要ではないか。
- ・ 調査書のデータと JAPAN e-Portfolio のデータを一元管理するための ID については、大学入試だけの ID ではなく、教育データの標準化に向けて検討がなされている小中高を通じた共通 ID と同一のものにすることが必要ではないのか。
- ・ 調査書データは個人データであるから、授受システムのようなものを作るのであれば、公的な組織が一元的に運営する形でないといけない。

3. 調査書や志願者本人記載資料の活用及び大学への情報提供の在り方に関する事項

○ 調査書の活用に当たっての留意点について、どのように考えるか。

- ・ 調査書は指導要録に基づいて作成する、指導要録の記載事項は設置者が定めるという原則を押さえた上で、調査書に何を記載するかということと、多面的評価に何をどう使うかは、分けて議論することが必要である。
- ・ 調査書と、生徒が自主的に入力する e-Portfolio とを合わせて評価することが、妥当な評価方法であると考えられる。
- ・ 調査書には、進学用だけでなく就職用もあることに留意が必要である。

○ その際、特に大規模大学における調査書の活用の課題はどのようなものか。また、調査書の活用に係る高校側の期待はどのようなものか。

○ 志願者本人記載資料の内容を合否判定の資料として活用する場合の基本的な考え方について、どのように考えるか。

- ・ 人が人を評価するという難しい問題があって、かつ志願者本人が真面目にきちんと活動内容などを入力するかという疑問がある。

○ 特に志願者が経済的な条件等に左右されず等しく多面的な評価の機会を得ることができるような評価の手法等について、どのように考えるか。

- ・ 生徒の家庭状況によって体験格差が生じることから、例えば、調査書等に家庭背景に関する項目や、アルバイトや兄弟の世話等を評価する項目を入れるなど、経済的に不利な生徒が排除されないような手立てが組み込まれていることが重要である。
- ・ 全ての受験者に対しての公平というのは現実的に難しいところがあり、同一入試区分の中での公平性が求められるとしても、区分が異なると必ずしも公平でない現状がある。

○ 受験生の学びや活動成果等のデータの集積や管理、個人情報保護の在り方及び管理の主体について、どのように考えるか。特に、一元管理の利便性や課題についてはどうか。

- ・ 調査書で教員が把握している以外の生徒の活動などは、JAPAN e-Portfolio や生徒の活動報告書を通じて、知りたい大学が得られればよいわけで、一旦調査書に落とし込む必要は必ずしもないのではないか。

○ 民間事業者ポートフォリオの入試での活用について、どのように考えるか。